



シリーズ
タンチョウ
Vol. 366

鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ

石下 亜衣紗

〒085-1205 鶴居村中雪裡南 ☎64-2620 / FAX64-2239

鶴居 タンチョウ

検索



2025 夏 大学生の鶴居ワークキャンプ

8月30日～9月3日にかけて、フィールドアシスタントネットワーク（F.A.N.）の学生さん達が鶴居村でタンチョウ保護の歴史と現状について学び、実際の保護活動を体験していきましました。F.A.N.とは国内の様々な大学の学生を中心とした若者たちが、「自然保護」という共通認識のもとに、「今、自分たちに何かできるのか、何をすべきなのか」と考え、行動していくグループです。鶴居村には毎年、夏と冬に訪れ、レンジャーと一緒に活動しています。今回は大学生4名の参加でした。

- 1日目：鶴居村に到着後、館内でレンジャーが鶴居村とサンクチュアリの取り組みを解説しました。
- 2日目：野外セミナーとして釧路湿原を実際にまわりながら、自分の目で見て、話を聞いていきます。湿原や観光スポットを巡り、タンチョウの生息環境、釧路湿原の現状、どんな環境・活動がタンチョウを守ってきたのか、近年発生している問題などを知ってもらいました。酪農家さんを訪れ、タンチョウがそばにいる暮らしについての話を聞くこともできました。道中、村内のあちこちでタンチョウを見かけ、タンチョウがいることは、ここでは日常の1つなのを実感したようでした。
- 3日目：冬期自然採食地の整備を行いました。今年も「水の流れに変化をつける」、「カエルの越冬場所を作る」、「底生生物の付着できる所を作る」という作業でしたが、昨年までの工法に少し改良を加えました。カエルの越冬場所はカゴに落ち葉を詰めて置く形から、より開放的な落ち葉だまりに変更。底生生物用の砂利は拳大の小石に変え、付着する面積を広くしてみました。冬には生き物調査を実施する予定なので、効果のほどが楽しみです。
- 4日目：センター周辺の環境整備のお手伝いをさせていただきました。伸びすぎた枝の除伐など、前日の作業から続き、しっかりと周りを見て、声を掛け合うなど道具の扱いと、安全管理を身に付けていました。
- 5日目：振り返りと片付けをして鶴居村を後にしました。学生さん達の4日間の振り返りのコメントを一部抜粋して紹介させていただきます。

- ・タンチョウと人間の共生と観光がうまく噛み合っている。新しい活動や事業もあるので注目したい。すでにインバウンドが多い印象だが、さらに増えたらどうなるのだろうか？
- ・タンチョウが身近である分、様々な軋轢が生じていると実感した。野生動物や村の魅力があり、多くの人に来てもらいたい半面、オーバーツーリズムは避けたいという思いもあり、一筋縄ではいかないなと感じた。
- ・野鳥と人間の共生についてあまり知識がなく、感情のままにタンチョウを保護しているのではないかと思っていたが、実際は給餌量の削減や追い払いなど全体に配慮しているのが衝撃だった。
- ・保護の歴史を知り、自然との距離が近く、環境保護の考え方が根付いていると感じた。今はタンチョウが増えて、新たな問題が出ているのに驚きましたが、これからは「保護」より「共存」の道を模索していきたい。冬にもF.A.N.の活動が予定されています。村内や釧路湿原で作業する学生さん達を見かけたら、ぜひみなさんも声をかけてみてください。



3日目：整備作業、頑張りました！